



Super Global Elementary school 五木東 SGEたより

平成31年1月15日（火）発行



第7回GC養成講座（グローバル・コミュニケーター養成講座）は、JICA（国際協力機構）デスク熊本 国際協力推進員の赤星亜朱香さんに、「世界とつながる、言葉の力」と題し、青年海外協力隊で活動された貴重な経験をもとに話していただきました。

【概要】

今、なんと言ったか分かりますか。（「皆さん、こんにちは。」「私の名前は、赤星亜朱香です。」…）どこの国で話されているか。何語か想像してみてください。この言葉は、「テトウン語」です。東南アジアの東ティモールで話されている言葉です。聞いていてどんな気持ちでしたか。「何を言っているのか分からない。」「何をやっているんだろう。」私もそんな気持ちでした。言葉が通じないところで生活するというを少し体験してほしかったので聞いてもらいました。

私は、2年間、青年海外協力隊で栄養士として活動してきました。東ティモールには、離島があり、大きな船で渡ります。でも、一週間に一日だけ、一往復しかありません。私も一週間島の診療所に宿泊

しました。

港の前の道には、店や食堂が並びます。車やバイクが通る道は、島の半分だけです。島の反対側には、小さい舟で行きます。反対側は、車もバイクも通らないので、荷物は担いで運びます。病院もなく、外国人も少ない地域です。私は、テトウン語を少し話せるようになっていたので、テトウン語を話せる外国人と驚かれ、現地の人と仲良くなりました。あまり、現地の人と話すことが得意ではなかったのですが、現地の女性が色々話しかけてくれたことでどんどん話すようになりました。

現地の言葉で、現地のことを話すのは楽しいです。言葉が上手でなくても、伝えたいな、近づきたいなと思うことが大切です。「話せるようになったらこんなことをしたいな」と目標を持つことで、勉強も楽しくなります。

英語が上達する方法は、誰かと話すことです。しかも、一方的に話すのではなく、相手の話を聞くことです。言葉の先にあるものは、人とのつながりです。言葉には世界とつながる力があります。